

平成 2 2 年度病虫害発生予報第 1 0 号

平成 2 2 年 1 2 月 2 日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区 分	農 作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	予 想 発 生 量
野 菜	ラッキョウ	白色疫病	平 年 並	やや多い
	イチゴ	うどんこ病	平 年 並	平 年 並
		灰色かび病	平 年 並	平 年 並

気象予報（抜粋）

1 か月予報（1 1 月 2 7 日～1 2 月 2 6 日：1 1 月 2 6 日、広島地方気象台発表）

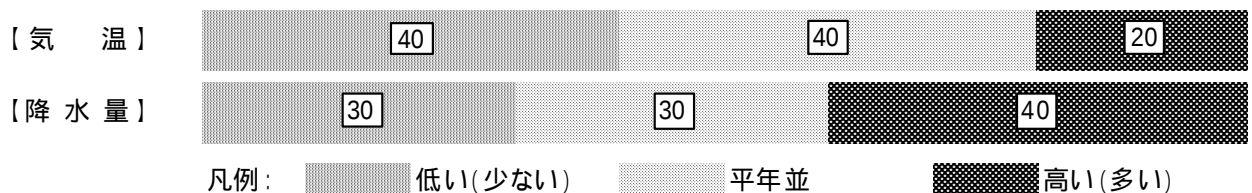
向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

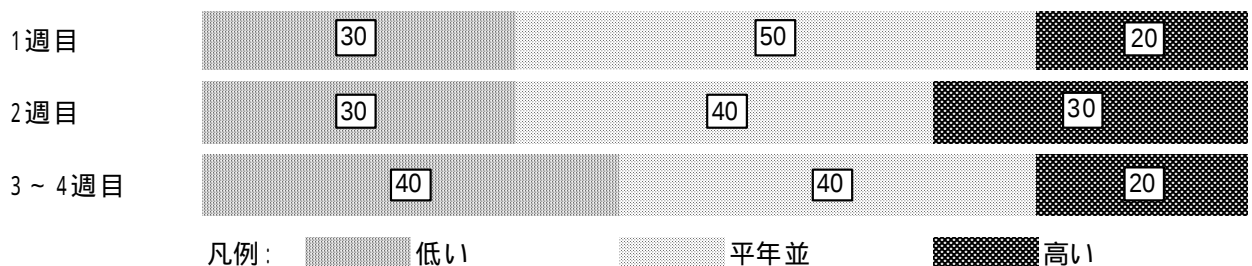
向こう 1 か月の気温は平年並または低い確率ともに 4 0 % です。

週別の気温は、1 週目は、平年並の確率が 5 0 %、3 ～ 4 週目は、平年並または低い確率ともに 4 0 % です。

< 向こう 1 か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



野 菜

〔ラッキョウ〕

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期	平 年 並
発 生 量	やや多い

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、県東部及び中部の現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 前年の発生が多かったことから、土壌中の病原菌密度は高いと考えられる。

ウ 本病は、晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

エ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、発病前の10月、11月、12月の毎月1回の予防散布が効果的である。12月中旬にはリドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液などを散布する。

イ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、リドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液などを散布する。

ウ 土壌中の病原菌密度は高いと考えられるので、ほ場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

〔イチゴ〕

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期	平 年 並
発 生 量	平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に使用する。

イ 既に本ほ場で発生している場合は、薬剤を3～5日間隔で薬剤を替えて散布する。その後、病徴の進展が抑制されれば、7～10日間隔に戻す。

ウ ストロビルリン系の薬剤は、浸透性を高める効果のある展着剤と混用すると薬害が出やすいので、これらの展着剤は加用しない。

エ EBI剤を使用する際は、カリグリーンなどを混用すると効果が高まる。

オ 薬剤防除は、葉の裏や芽の間にも薬液がよくかかるように、丁寧に散布する。

カ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の主な防除薬剤

農薬系統分類	薬 剤 名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数	効果	
					予防	治療
無機硫黄	硫黄粒剤	6～16 g / 2000m ³	-	-	○	
	イオウフロアブル	500～1,000倍	-	-	○	
有機銅	サンヨール	500～1,000倍	6	前日	○	
アクリル・リジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日	○	
	フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日	○	
グアニジン系	ベルケート水和剤	4,000倍	2	前日	○	
	ベルケートフロアブル	2,000～4,000倍		前日	○	
グアニジン系・ヒドロキシアミド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日	○	
アミライト系	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日	○	
ストロビルリン系	アミスター-20フロアブル	1,500～2,000倍	3	前日	○	○
	ストロビ-フロアブル	3,000～5,000倍	3	前日	○	○
E B I 剤	ラリ-水和剤	4,000～8,000倍	3	前日	○	○
	ルビゲン水和剤	4,000倍	3	前日	○	○
	ハイクォール水和剤	5,000倍	3	前日	○	○
	トリフィン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日	○	○
	トリフィンシ-ット	50 g / 400m ³		前日	○	○
	スコア顆粒水和剤	2,000倍	3	前日	○	○
	ハ-ンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日	○	○
	ハ-ンチョTFシ-ット	50g/400m ³		前日	○	○
キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日	○	○
脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	300～600倍	-	前日		○
無機化合物	ジ-ファイン水和剤	750～1,000倍	-	前日	○	○
	カリク-リン	800～1,000倍	-	前日		○
	ハ-モイト水溶剤	800～1,000倍	-	前日		○

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在の発生量はやや少なく、発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想される。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯葉や病果は早めに除去する。

イ ハウス内が20 前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 薬剤防除は、表2を参考に各薬剤を7～10日間隔で輪番散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の主な防除薬剤

農薬系統分類	薬 剤 名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
有機銅	サンヨール	500倍	6	前日
アクリル・リミジン系	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
	フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日
ジカルボキシミド系	ロブラル水和剤	1,500倍	4	前日
	ロブラル500アクト	1,000～1,500倍		前日
	ロブラルくん煙剤	100g/300～400m ³		前日
	スミレックス水和剤	2,000倍	3	前日
	スミレックスくん煙顆粒	6g/100m ³		前日
アクトライト系	カンタストライフフロアブル	1,000～1,500倍	3	前日
	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
ストロビルリン系	アミスター20フロアブル	1,500倍	3	前日
フェニルピロール系	セイバーフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
フェニルピロール系・ヒドロキシアニリド系	ジャストミート顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
グアニジン系	ベルケートフロアブル	2,000倍	2	前日
グアニジン系・ヒドロキシアニリド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日

【おしらせ】

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.famic.go.jp/>)

**農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、
周辺への飛散には十分注意しましょう。**

< 鳥取県病虫害防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

ホームページでは、病虫害の発生予察情報、病虫害の診断方法や発生予察方法などの情報をお知らせしています。御活用ください。

鳥取県病虫害防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL：0857-53-1345、FAX：0857-53-0723

E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp

今回の予報発表は、2月3日（木）の予定です。